



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

シンガポールの政策 港湾政策編

2021年3月

一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

目次

1. 港湾都市としての成り立ち
2. 貨物取扱量の推移
3. シンガポール港の概要
4. 4つの主要ターミナル
5. 港湾管理組織の沿革
6. 港湾設備とサービス
7. 今後の展望(政策概要)

1. 港湾都市としての成り立ち

■ 中継貿易の仕組み

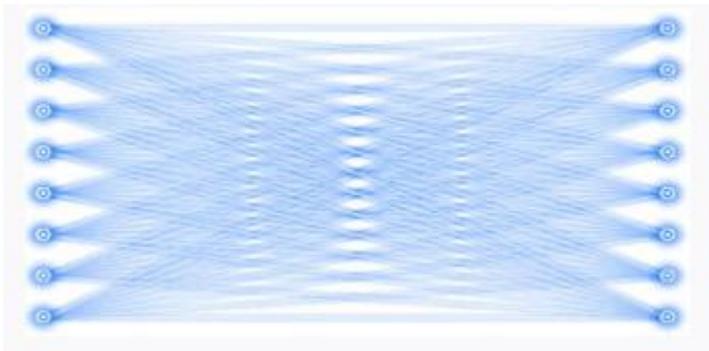
積み荷港から輸送された荷物を、途中の港（ハブポート）で別の船に積み替え、最終の積み下ろし港に輸送するもの。トランシップとも呼ばれる。

大型船の運航上、いったん荷物を集約した方が良い場合などで行われる。

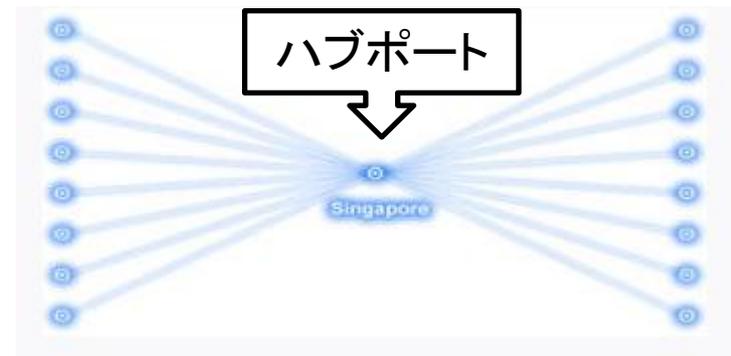
なお、シンガポールに到着したコンテナの約85%が、中継貿易のものである。

○ 8つの地域から、8つの地域へ輸送する場合

- ・ 各地から直接輸送する場合



- ・ 中継貿易を利用する場合



1. 港湾都市としての成り立ち

年月日	出来事
1819年1月28日	英国東インド会社のスタンフォード・ラッフルズ卿の上陸
1830年代～	マレー半島で産出されるガンビア、スパイス、原油、天然ゴム、錫等の積出港として発展
1963年9月16日	マレーシア連邦の一州として英国から完全独立
1964年4月1日	シンガポール港湾庁（PSA）が設立
1965年8月9日	マレーシアから分離独立、シンガポール共和国が成立
1972年	東南アジア初となるコンテナターミナルが完成
1990年	コンテナの取扱量が初めて世界一となる
1990年代	世界最大の貿易港としての地位を確立

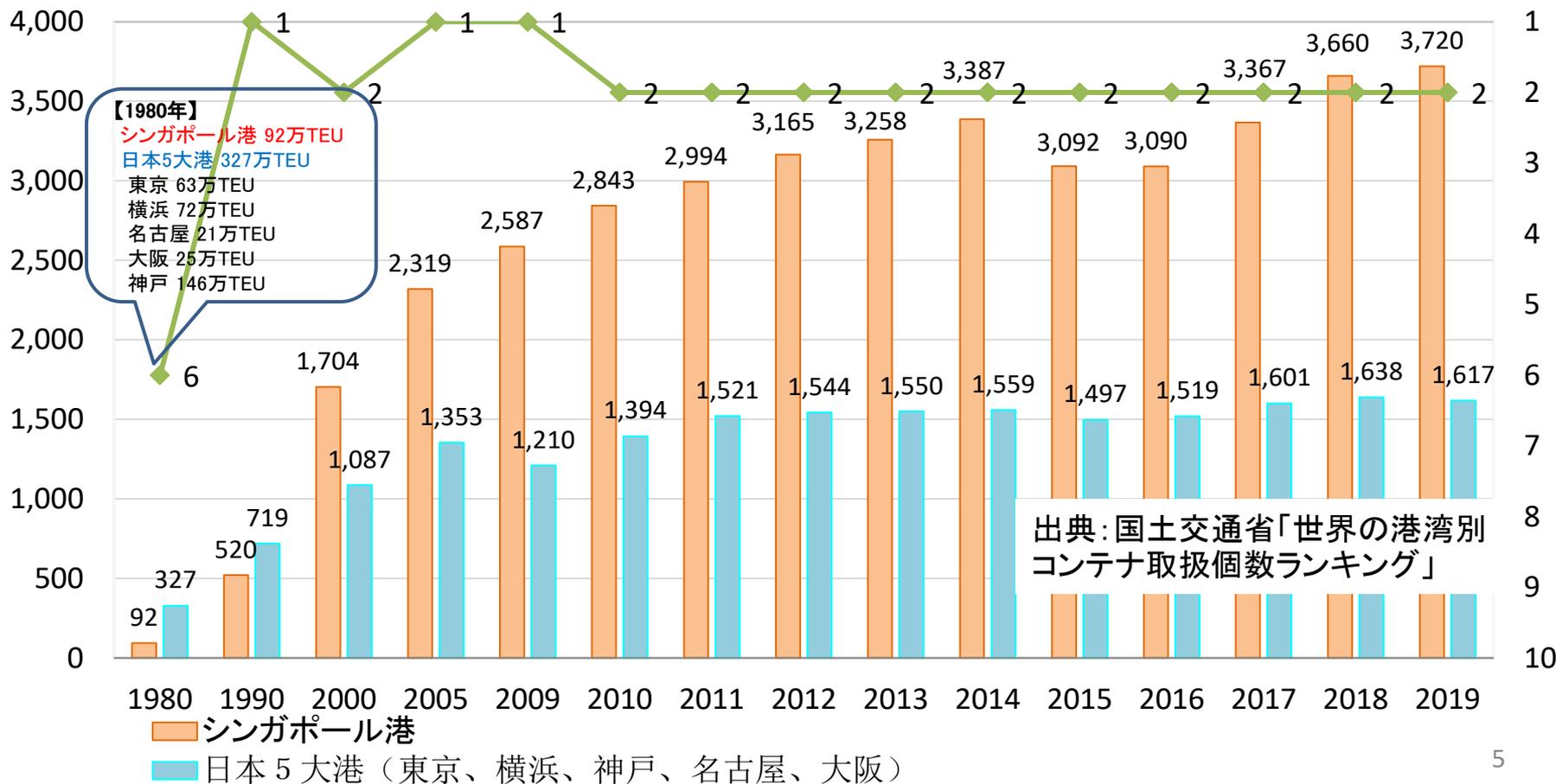


2. 貨物取扱量の推移

■ シンガポール港と日本主要5大港の貨物取扱量の比較

【2019年】
 シンガポール港 3,720万TEU
 日本5大港 1,617万TEU
 東京 501万TEU
 横浜 299万TEU
 名古屋 284万TEU
 大阪 246万TEU
 神戸 287万TEU

単位：万TEU（貨物量単位）
 ※1TEU = 20フィートコンテナ



2. 貨物取扱量の推移

■ 貨物取扱量の世界上位10港

単位：万TEU（貨物量単位）
 ※1TEU = 20フィートコンテナ

順位	1980年		1990年		2000年		2005年		2010年		2019年	
	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量	港湾名	取扱量
1	NY/NJ	195	シンガポール	520	香港	1,810	シンガポール	2,319	上海	2,907	上海	4,330
2	ロッテルダム	190	香港	510	シンガポール	1,704	香港	2,260	シンガポール	2,843	シンガポール	3,720
3	香港	147	ロッテルダム	368	釜山	754	上海	1,808	香港	2,370	寧波	2,754
4	神戸	145	高雄	350	高雄	743	深圳	1,620	深圳	2,251	深圳	2,577
5	高雄	98	神戸	260	ロッテルダム	628	釜山	1,184	釜山	1,419	広州	2,324
6	シンガポール	92	釜山	236	上海	561	高雄	947	寧波	1,314	釜山	2,199
7	サンファン	85	ロサンゼルス	212	ロサンゼルス	488	ロッテルダム	925	広州	1,255	青島	2,101
8	ロングビーチ	83	ハンブルク	197	ロングビーチ	460	ハンブルク	809	青島	1,201	香港	1,830
9	ハンブルク	78	NY/NJ	190	ハンブルク	425	ドバイ	762	ドバイ	1,160	天津	1,730
10	オークランド	78	基隆	181	アントワープ	408	ロサンゼルス	749	ロッテルダム	1,115	ロサンゼルス/ロングビーチ	1,697

出典：国土交通省「世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング」

3. シンガポール港の概要

■ シンガポール港

120カ国以上の600の港と結ばれている世界最大級のハブ港

- ①総面積：817ha（東京ドーム約174個分）
- ②岸壁延長：21,033m
- ③最大水深：18m
- ④コンテナバース数：66か所
- ⑤コンテナ用クレーン数：195基
- ⑥貨物取扱能力：4,300万TEU
- ⑦運営：PSAコーポレーション



主なデイリー運航便

オーストラリア：3、中南米：1、中国・香港・台湾：12、ヨーロッパ：4、日本：3、南アジア：8、東南アジア：34、アメリカ：2

出典：PSA及び日本港湾協会ホームページを基に作成

3. シンガポール港の概要

世界の港湾都市ランキング (2019) 総合世界1位 (2019年)

- 1位 シンガポール
- 2位 ハンブルク
- 3位 ロッテルダム
- 4位 香港
- 5位 ロンドン
- 6位 上海
- 7位 オスロ
- 8位 東京
- 9位 ドバイ
- 10位 釜山
- 11位 アテネ
- 12位 ニューヨーク
- 13位 コペンハーゲン
- 14位 ヒューストン
- 15位 アントワープ

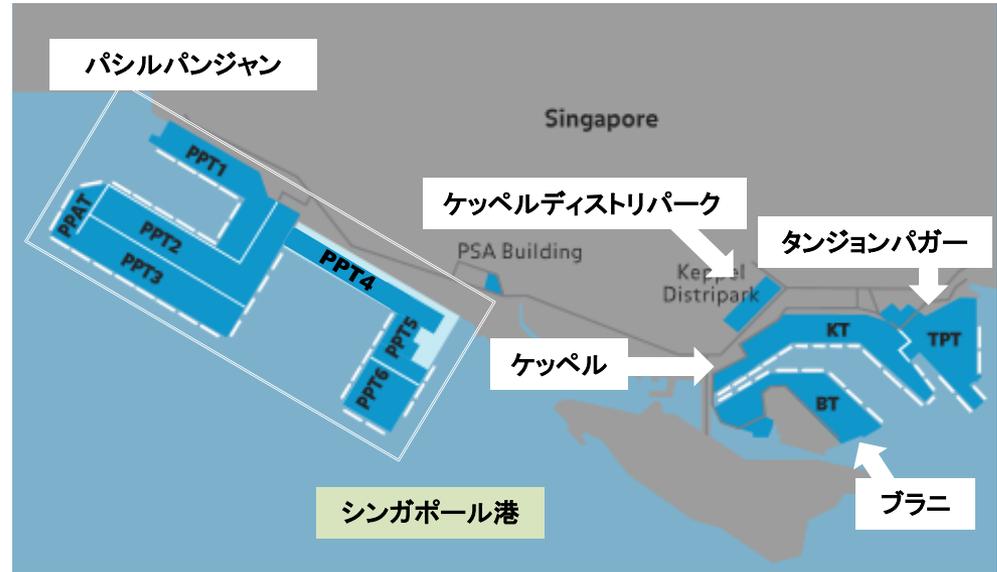
- 積み替え・出荷センター機能 1位
- 港湾物流機能 1位
- 魅力・競争力 1位



出典: THE LEADING MARITIME CAPITALS OF THE WORLD

4. 4つの主要ターミナル

■ 各ターミナルの位置



■ 各ターミナルの概況

ターミナル名	タンジョンパガー	ケッペル	ブラニ	パシルパンジャン
面積	79.5ha	102.5ha	84ha	551ha
埠頭の長さ	2,097m	3,164m	2,325m	13,447m
最大深	14.8m	15.5m	15m	18m
コンテナバース数	7	14	8	37
クレーン数	0	21	26	148

出典：PSA ウェブサイトの情報を基に作成

5. 港湾管理組織の沿革



- 1863年 中国人実業家であったタン・キム・チン (Tan Kim Ching) がタンジョンパガードックカンパニー (1913年にシンガポール港湾委員会に移行) を設立し、2隻の蒸気船とともに営業を開始。
- 1964年 シンガポール港湾委員会を前身とする、シンガポール港湾庁 (PSA : The Port of Singapore Authority) が設立。
- 1997年 港湾ターミナル及び施設の運営を担う株式会社PSAコーポレーションとして民営化。
(前年に海事港湾庁 (MPA : Maritime and Port Authority) へ海事、港湾業務の監督などの機能が移管)
- 2003年 組織再編成により、政府系投資会社のテマセク・ホールディングスが全額出資する、PSAインターナショナルが設立され、株式会社PSAコーポレーションはその子会社となった。

6. 港湾整備とサービス



TradeNet、TradeXchange → Networked Trade Platform (NTP)
(政府機関と連動した通関システム+貿易物流業界の情報交換プラットフォーム)

- ・通関手続きのワンストップ化

PORTNET (海運事業者向けの商取引システム)

- ・入港手続きやコンテナターミナルの利用に関する情報を一括管理

CITOS (ターミナル操作管理システム)

- ・コンテナの積み替え作業、トラックの配置等を中央制御室で一括管理

Flow-Through Gate (港湾施設入口ゲート通過システム)

- ・IT技術を駆使したスムーズなセキュリティチェック

RCOC (遠隔クレーン操作・制御システム)

- ・自動化クレーン操作による生産性向上

7. 今後の展望（政策概要）

①タンジョンパガー、ケッペル、ブラニのターミナルの機能をトゥアスへ移転し、2021年にフェーズ1が供用開始（上記3港は2027年に閉鎖）

②パシルパンジャンターミナルの機能を2040年を目途にトゥアス地区へ移転



出典：THE STRAITS TIMES

～ ご清聴ありがとうございました ～

E N D



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore